令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 学校番号 105

・夢の実現に向け、自ら学び自ら考え、生き生きと豊かに表現できる児童生

A B C D

自己評価

学校教育目標

7 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	徒の育成	7,71 1 0 0 7 1 1 1 1
	・自他を尊重し、学校や地域で生き生きと生活できる児童生徒の育成	
	・運動に親しみ、心身ともに健康で、明るく元気な児童生	_ , _ , , , , ,
		Elicis 11/4/4
評価する領域・分野	教育活動・学習指導:研修(※番号は学校評価のアンケート項	[目)
	2:学校は、特色ある教育活動を展開している。	
	13: 学校の先生は、専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている。	
	14: 学校の授業内容や進度は、児童生徒の実態に即している。	
	15: 学校の先生は、児童生徒の実態を的確にとらえ、授業は一人一人に合った教材・教具	
	の準備がされている。	
	16:学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる。	
	22: 学校は、一人一台タブレットの整備にともない、ICTを活用した学習に積極的に取	
	り組んでいる。	
現状及びアンケート	・項目22以外は、高評価が85%以上と高い評価になっており、専門性の	
の結果分析等	向上や授業改善の取組みは評価されている。	
	・項目16は昨年度比で10ポイント高く、年度当初から	っコロナ禍の制限が
	なくなり多様な教育活動が展開できていることが評価されている。	
今年度の具体的かつ	(1) 「児童生徒が、自ら学び、自ら考え、生き生きと豊かに表現できる授業	
明確な重点目標	づくり」をテーマに、学習指導要領に基づいた根拠のある指導と児童生徒	
	の姿を的確に捉えた授業改善をすすめ、よりよい授業へつなげることがで	
	きるように、全校研究をすすめる。	
	(2) 児童生徒の学習の質を高めるため、教員の専門性と授業力の向上を図る。	
重点目標を達成する	・「研究推進」では、各部研究チーフを中心に、小グループを設定し、研	
ための校内組織体制と	究の日を通して実践の交流や検証を行う。	
具体的取組	・「研修」では、各研修について講師との連携や会場設営等の役割を担う。	
達成度の判断・判定	・研究テーマに基づき、授業改善を行い全校研究をすすめ	ることができたか。
基準あるいは指標	・教員の専門性と授業力の向上を図ることができたか。	T
評価の視点		評価
•	、全校研究会の実施を通した授業改善	A B C D
② 学習の質を高めるための研修の実施		A B C D
* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	は果と課題(○成果・▲課題)	総合評価
	ビグループごとの研究授業(2回以上)、第3回全校研究会	
での研究授業、授業研	「究会等を実施することで、それぞれの教員が研究テーマを	

意識した授業改善を行い、授業力向上につなげることができた。

ーズに応じた書籍購入を行い、活用を呼び掛けた。

きなかった。

共有が十分にできなかった。

○定期的に回覧レポートで研修会や研究会の案内を行うとともに、「コアスクール を核とした専門性向上システム構築事業費」を運用して、教員の興味・関心やニ

▲障害理解研修は計画通りに実施できたが、希望者研修会については十分に実施で

▲小・中・高・卒業後までを見据えた連続性のある支援のための教材・支援方法の

来年度に向けての 改善方策案

- ・来年度は全校研究テーマ2年目(最終年)となり、その成果と課題をまとめるために近隣の学校へ呼びかけ、公開授業研究会の実施を検討したい。
- ・教員が学びたい内容を積極的にリサーチし、内容に応じて校内の経験のある教員へ講師依頼し、3か月に1回程度のペースで希望者研修会を実施する。
- ・他分掌と連携して、キャリア教育の視点を取り入れた研修会を計画し、小・中・高・卒業後までを見据えた連続性のある支援について全校教員で共通理解する。

学校関係者評価 (令和7年2月27日実施)

意見・要望・評価等

・授業研究会を、校内から近隣の小中学校等への公開研究会としていく取組みはよい。現在、小中学校の通常の学級で適応できなくて特別支援学級に来る児童生徒が増えキャパオーバーとなり、特別支援学校に入ってくる流れがあると聞く。公開研究会での特別支援学校の授業公開やセンター的機能等を通して、是非、地域の小中学校の特別支援学級や通常の学級の先生方にノウハウを伝えるという役割を担ってほしい。